



株主のみなさまへ

第141期 報告書

平成20年4月1日から平成21年3月31日まで

エンシュウ株式会社

CONTENTS

目次

株主のみなさまへ	1
事業の概況	3
トピックス	6
売上及び受注の状況	8
業績の推移	8
連結財務諸表	9
個別財務諸表	11
株式の状況	13
会社の概況	14



本社及び工場



浜北工場

TOP MESSAGE

株主のみなさまへ

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別なご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当連結会計年度におけるわが国経済は、世界的な金融危機が实体经济に深刻な影響を及ぼし、需要の低迷や急激な円高などにより企業収益が大幅に減少するなど、景気が急速に悪化してまいりました。

このような情勢の中で当社グループは顧客ニーズに 대응できる新製品開発や積極的な販売活動を展開する一方で、生産コストおよび経費の削減に努めてまいりました。

しかしながら、売上高は工作機械関連事業部門および輸送機器他関連事業部門ともに減少し、連結売上高は41,562百万円（前年同期比8.5%減）となりました。また、利益につきましては、経費削減等の合理化施策の効果もあり連結営業利益は前年

を上回り311百万円（前年同期比614.5%増）となりましたが、連結経常損益は為替差損の影響もあり165百万円の損失となりました。連結当期純損益は異常操業度損失等の特別損失を計上したことにより636百万円の損失となりました。

当社グループを取り巻く経営環境は、世界的な景気悪化局面が続くものと思われ、一段と先行き不透明さを増しており大変厳しい状況にあります。このような状況のもと、受注の確保と収益力の向上に向けた更なる企業体質強化が求められています。

当社グループといたしましては、平成21年4月より新中期経営戦略をスタートさせ、「生き残りをかけた構造改革を実行し、成長に向けステップアップを目指す」ことを基本方針として、徹底した経営効率の改善・改革に取り組んでまいります。また、内部統制につきましては、平成20年4月に設置した内部統制会議を中心にリスク・コンプライアンス管理等の統制強化を推進してまいります。

当社グループといたしましては、安定した経営基盤の確立に、全社一丸となって取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

なお、第141期の配当につきましては、株主の皆様には誠に申し訳なく存じますが、財務状態が十分ではなく、その実施を見送らせていただくことといたしました。

平成21年6月

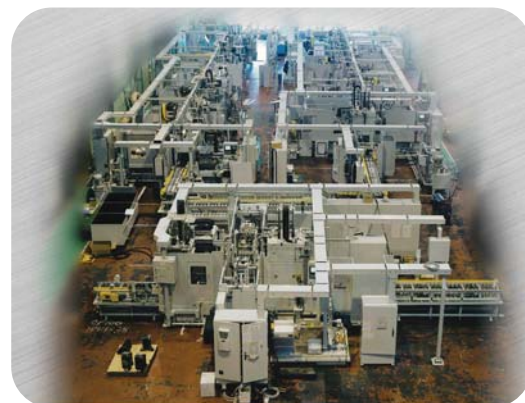
代表取締役社長

中安茂夫



事業の概況

平成20年4月1日から平成21年3月31日に至る当社グループ第141期連結会計年度の事業の概況をご報告申し上げます。



▲シリンダーブロック加工ライン

工作機械関連事業部門

当連結会計年度における工作機械業界（日工会）の受注総額は9,690億円となり7年ぶりに前年同期を下回りました。内需（前年同期比42.9%減）は3期連続の減少となり、また、好調でした外需（前年同期比36.1%減）も減少いたしました。

そのような中で工作機械事業では、中国等のアジア新興国を中心に販売活動を展開し拡販に努めてまいりましたが、受注高は主要顧客の自動車関連業界において設備投資の中止・凍結などが顕著となり大幅に減少いたしました。売上高につきましても同様の影響があり減少いたしました。

また、光関連事業につきましては、光技術をコアとして浜松ホトニクス株式会社と連携、協業を推進してきました高出力半導体レーザー加工機は、自動車関連部品および産業機械部品市場での溶接、切断、焼入れ分野への受注活動も展開してまいりました。また、営業支援のための加工技術の向上、用途開発にも取り組んでまいりましたが、設備投資抑制の動きもあり受注高、売上高ともに前年を下回り、採算的には引き続き厳しい状況となっております。

以上の結果、工作機械関連事業部門の売上高は22,270百万円（前年同期比3.1%減）となり、営業損益は32百万円の損失となりました。

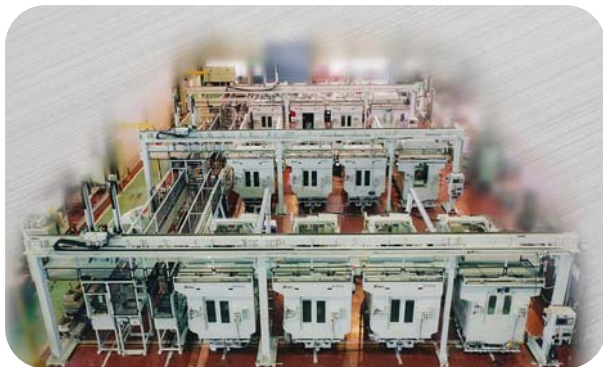
受注環境は非常に厳しい状況が続くと思われませんが、中国等のアジア新興国については、需要の回復が期待されています。また、市場も主要顧客であります自動車関連産業から非自動車産業分野にも積極的に展開してまいります。営業部門では、新たに「マーケティング戦略室」を設置し、顧客ニーズにあった製品開発と新たな市場開拓をサポートしてまいります。更に、海外での販売・サービス網を整備し拡販を図ってまいります。

依然として顧客からの価格要求は厳しく、技術、製造部門では更なる原価改革を推進しコスト削減に取り組んで



▲立形マシニングセンタ EV360

まいります。技術部門では、システム機械周辺装置の標準化等によるコスト削減を図り、また、マシニングセンタの製品開発も強化いたします。製造部門では、TPM活動をベースに生産性向上によるリードタイムの短縮、更に内製化等によりコスト削減を図ってまいります。また、海外調達の拡大による原価低減にも取り組んでまいります。更に海外現地生産を推進し低価格機械の市場投入を図ってまいります。



▲オイルパン加工ライン



▲高出力半導体レーザー

光関連事業におきましては、高出力半導体レーザー加工機の認知度が高まり、更には環境をキーワードにした引合いも増えてまいりました。営業力の強化や新しい加工技術の向上により販売拡大を目指してまいります。また、浜松ホトニクス株式会社および大学との連携により引き続き、研究・開発の推進も図ってまいります。

輸送機器他関連事業部門

当連結会計年度におきましては、主力製品であります大型二輪車用エンジン部品およびバギー車用エンジン部品の生産が大幅に減少したことにより、売上高は前年を下回りましたが、営業利益は生産コスト削減等により前年を上回りました。

以上の結果、輸送機器他関連事業部門の売上高は19,292百万円（前年同期比14.0%減）、営業利益は372百万円（前年同期比8.2%増）となりました。

今後につきましては、世界同時不況の影響で大型二輪車及びバギー車用エンジン部品の仕事量が減少し環境は厳しさを増しております。営業力強化による自動車関連の新規製品の取入れを拡大させるとともに、昨年、「TPM優秀継続賞」を受賞いたしましたTPM活動を基軸に一層の工場改善を推進し原価低減に努めてまいります。また品質向上に向けての体制の強化、仕組みづくりにも取り組んでまいります。



▲クランクケース加工ライン

もの作りの夢をかたちに

人と夢と技術のネットワーク

90年の歴史の中で培われた新技術への旺盛なチャレンジ精神と独創的な開発力は、日本のみならず世界の生産現場でその実績が認められ、大きな信頼をいただいています。

マシニングセンタ、フレキシブルトランスファマシン&ライオンなど、国内並びに海外の市場に向けて自信を持ってお客様へご提案をしております。



機械作り90年のノウハウは業界屈指。長年の機械作りの粋を結集してマシニングセンタ、トランスファマシン、FTL、FMSに、応用しています。「品質第一」をモットーに、お客様の信頼を向上し、環境対応・省エネにも配慮した機械作りに邁進しています。

光技術を応用し、世界で初めて製品化した高出力半導体レーザー加工システムによる溶接と焼入れは、市場の大きな期待を集めています。

シンプルで柔軟性のある効率の良い企業体質の構築を目指しています。さらには会社の発展と全社の円滑な運営のために活動しています。

工作機械で長年蓄積した高度な技術にさらに新技術を取り入れ、ハードとソフト両面でオリジナル製品を次々と開発。技術のエンシェウの名に相応しい開発力は国内外で高い評価を獲得しています。

輸送用機器部品の加工・組立は機械作りのノウハウと技術を生かして、低コスト、高品質の部品生産を実現しています。また、多くの自社製品を駆使し、積極的な品質改善活動と相俟って大きな信頼と確かな信用をいただいています。

第24回日本工作機械見本市(JIMTOF2008)は、2008年10月30日から11月4日まで東京ビッグサイトにて行われました。

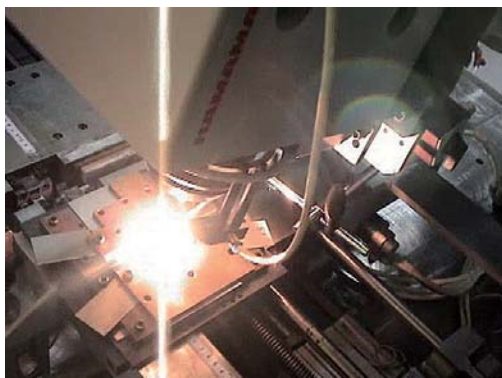
工作機械部門では、自動車部品・建設機械・航空機部品向けの横形マシニングセンタ『GE90H』等のマシニングセンタ4機種を出品しました。機内にカメラを取り付け切削中の機械を見て頂くデモンストレーションと、社内で開発した『切削監視機能』ソフトのデモンストレーションを行いました。

光関連部からは従来以上の深い溶込みを実現した新型「超高輝度半導体レーザー」を搭載した溶接システム『L1』と、「焼入れ用半導体レーザー」を搭載した『LJ』の展示、及びデモンストレ

ーションを行いました。特にレーザー焼入れは「局所的に焼入れができ、低歪な仕上がりが非常に魅力的だ」など、好評を得ております。



レーザーの用途拡大



新型の半導体レーザーは、溶接用途として従来型に比べ30%深い溶け込みが可能な高輝度半導体レーザーと、精密切断用途として従来型に比べ2倍の出力の1000Wが可能なファイバーディスクレーザーを投入いたしました。

これによりレーザー製品のラインナップが増え、お客様に加工時間の短縮や高品位な加工条件等の幅広い提案ができるようになりました。

また、導入後のお客様からは、半導体レーザーの特徴である省エネルギーの利点を活かし、導入前に比べ年間約90%のCO₂排出量の削減を実現されたとお喜びの声も聞かれています。さらに、環境をテーマにした引合いもあり、従来の工法では実現できなかった加工の試験・研究も進めており今後、お客様のニーズに応える工法革新のツールとして加工技術の向上と販売拡大を目指してまいります。

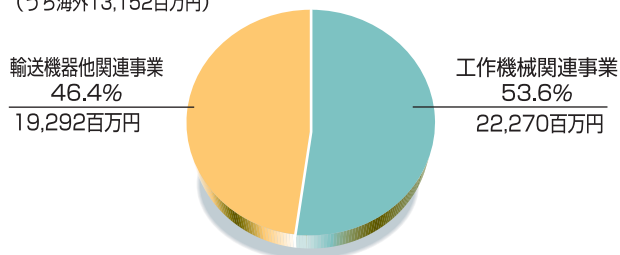
REPORT

連結 売上及び受注の状況

売上高

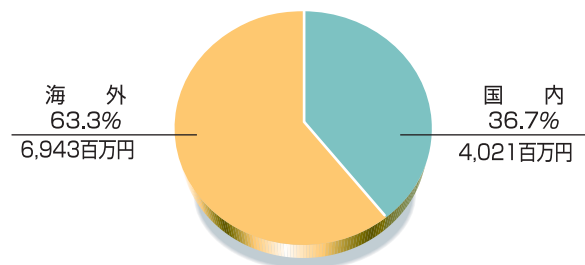
41,562百万円

(うち海外13,152百万円)



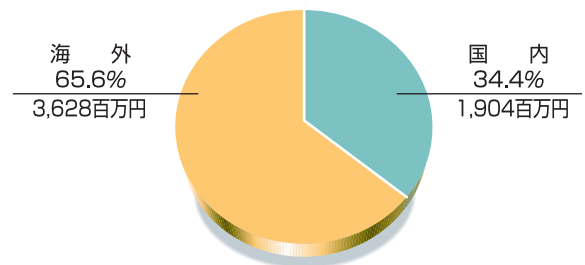
工作機械関連事業の受注高

10,964百万円



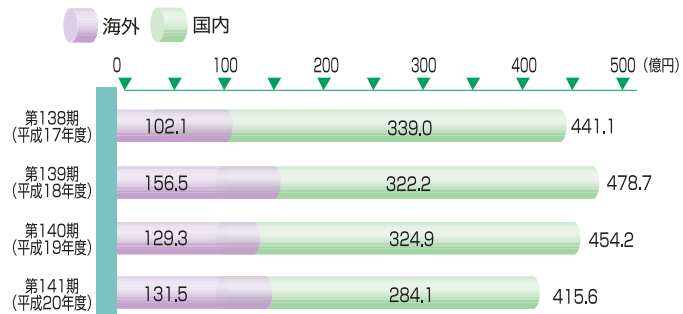
工作機械関連事業の受注残高

5,532百万円

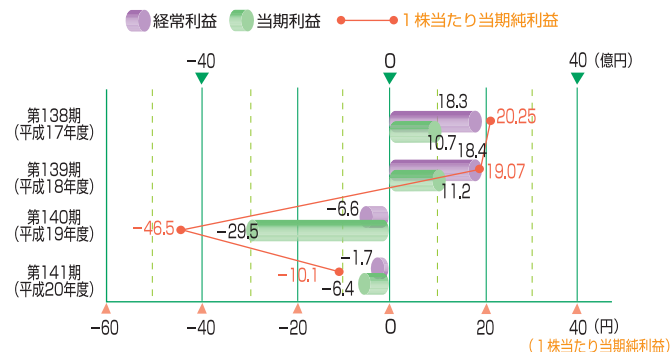


連結 第138期~第141期 業績の推移

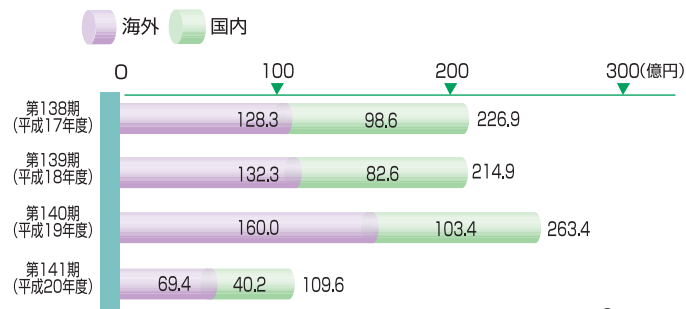
売上高



利益



工作機械関連事業の受注高



CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

連結財務諸表

連結貸借対照表 (平成21年3月31日現在)

(単位 百万円)

項 目	金 額	項 目	金 額
●資産の部●		●負債の部●	
流 動 資 産	17,624	流 動 負 債	12,535
現金及び預金	1,830	支払手形及び買掛金	5,455
受取手形及び売掛金	5,855	短期借入金	5,371
有価証券	167	リース債務	11
商品及び製品	3,503	未払法人税等	19
仕掛品	3,574	賞与引当金	120
原材料及び貯蔵品	733	その他の	1,557
繰延税金資産	36	固 定 負 債	12,467
信託受益金	1,504	長期借入金	7,820
その他の	437	リース債務	31
貸倒引当金	△18	再評価に係る繰延税金負債	2,110
固 定 資 産	15,735	退職給付引当金	2,115
有形固定資産	15,493	役員退職慰労引当金	113
建物及び構築物	2,471	その他の	275
機械装置及び運搬具	4,972	負 債 合 計	25,002
土地	7,472	●純資産の部●	
リース資産	28	株 主 資 本	5,303
建設仮勘定	181	資 本 金	4,640
その他の	367	資 本 剰 余 金	1,230
無形固定資産	39	利 益 剰 余 金	△521
リース資産	14	自 己 株 式	△45
その他の	25	評 価・換 算 差 額 等	3,020
投資その他の資産	202	その他有価証券評価差額金	△26
投資有価証券	140	繰延ヘッジ損益	△1
その他の	153	土地再評価差額金	3,204
貸倒引当金	△90	為替換算調整勘定	△156
資 産 合 計	33,360	少 数 株 主 持 分	33
		純 資 産 合 計	8,357
		負 債 及 び 純 資 産 合 計	33,360

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書（要旨）

自平成20年4月1日
至平成21年3月31日
(単位 百万円)

項目	金額
売上高	41,562
売上原価	38,277
売上総利益	3,285
販売費及び一般管理費	2,974
営業利益	311
営業外収益	178
営業外費用	654
経常損失	165
特別利益	21
特別損失	491
税金等調整前当期純損失	634
法人税、住民税及び事業税	36
法人税等調整額	△29
少数株主損失	△4
当期純損失	636

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

自平成20年4月1日
至平成21年3月31日
(単位 百万円)

残高及び変動事由	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前期末残高	4,640	3,053	△1,707	△41	5,945
当期変動額					
欠損填補		△1,823	1,823		—
当期純損失			△636		△636
自己株式の取得				△3	△3
土地再評価差額金取崩額			△1		△1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—
当期変動額合計	—	△1,823	1,185	△3	△642
当期末残高	4,640	1,230	△521	△45	5,303

残高及び変動事由	評価・換算差額等					少数株主 持分	純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
前期末残高	14	△4	3,203	79	3,293	70	9,309
当期変動額							
欠損填補							—
当期純損失							△636
自己株式の取得							△3
土地再評価差額金取崩額							△1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△40	3	1	△236	△273	△36	△309
当期変動額合計	△40	3	1	△236	△273	△36	△951
当期末残高	△26	△1	3,204	△156	3,020	33	8,357

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

自平成20年4月1日
至平成21年3月31日
(単位 百万円)

項目	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	489
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,321
財務活動によるキャッシュ・フロー	△40
現金及び現金同等物に係る換算差額	△66
現金及び現金同等物の減少額	△939
現金及び現金同等物の期首残高	2,770
現金及び現金同等物の期末残高	1,830

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

NON-CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENTS

個別財務諸表

個別貸借対照表 (平成21年3月31日現在)

(単位 百万円)

項 目	金 額	項 目	金 額
●資産の部●		●負債の部●	
流 動 資 産	16,264	流 動 負 債	11,497
現金及び預金	1,576	支払手形	1,928
受取手形	968	買掛金	2,663
売掛金	5,629	短期借入金	5,371
商品及び製品	1,770	リース債務	6
仕掛品	3,564	未払費用	1,009
原材料及び貯蔵品	724	未払法人税等	61
未収入金	341	未払消費税	19
信託受益権	1,504	前受金	54
関係会社短期貸付金	98	預り金	35
その他の貸倒引当金	87	賞与引当金	28
	△0	固定資産代支払手形	120
固 定 資 産	16,094	その他の	176
有形固定資産	15,454		21
建物	2,343	固 定 負 債	12,446
構築物	127	長期借入金	7,820
機械及び装置	4,954	リース債務	21
車両運搬具	9	再評価に係る繰延税金負債	2,110
工具、器具及び備品	354	退職給付引当金	2,115
土地	7,472	役員退職慰労引当金	113
リース資産	11	預り保証金	264
建設仮勘定	181	その他の	0
無形固定資産	35	負 債 合 計	23,943
ソフトウェア	4	●純資産の部●	
リース資産	14	株 主 資 本	5,237
電話加入権	5	資 本 本 金	4,640
施設利用権	11	資 本 剰 余 金	1,230
投資その他の資産	604	資 本 準 備 金	1,230
投資有価証券	85	利 益 剰 余 金	△587
関係会社株式	392	その他利益剰余金	△587
関係会社出資金	70	繰越利益剰余金	△587
長期前払費用	4	自 己 株 式	△45
従業員に対する長期貸付金	30	評 価・換 算 差 額 等	3,177
破産更生債権等	88	その他有価証券評価差額金	△26
その他の貸倒引当金	23	繰延ヘッジ損益	△1
	△90	土地再評価差額金	3,204
資 産 合 計	32,358	純 資 産 合 計	8,414
		負 債 及 び 純 資 産 合 計	32,358

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別損益計算書（要旨）

自平成20年4月1日
至平成21年3月31日
(単位 百万円)

項目	金額
売上高	41,077
売上原価	38,221
売上総利益	2,856
販売費及び一般管理費	2,455
営業利益	401
営業外収益	174
営業外費用	659
経常損失	83
特別利益	11
特別損失	498
税引前当期純損失	570
法人税、住民税及び事業税	14
法人税等調整額	0
当期純損失	586

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

個別株主資本等変動計算書

自平成20年4月1日
至平成21年3月31日
(単位 百万円)

残高及び変動事由	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計
	資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
前期末残高	4,640	3,053	3,053	△1,823	△1,823	△41	5,829
当期変動額							
欠損填補		△1,823	△1,823	1,823	1,823		—
当期純損失				△586	△586		△586
自己株式の取得						△3	△3
土地再評価差額金取崩額				△1	△1		△1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							—
当期変動額合計	—	△1,823	△1,823	1,236	1,236	△3	△591
当期末残高	4,640	1,230	1,230	△587	△587	△45	5,237

残高及び変動事由	評価・換算差額等				純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	評価・換算 差額等合計	
前期末残高	14	△4	3,203	3,213	9,042
当期変動額					
欠損填補					—
当期純損失					△586
自己株式の取得					△3
土地再評価差額金取崩額					△1
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△40	3	1	△36	△36
当期変動額合計	△40	3	1	△36	△628
当期末残高	△26	△1	3,204	3,177	8,414

STOCK REPORT

株式の状況

1. 株式の総数・資本金

発行可能株式総数	150,000,000株
1単元の株式数	1,000株
発行済株式の総数	63,296,882株 (自己株式 237,664株を除く)
資本金	4,640,850,000円

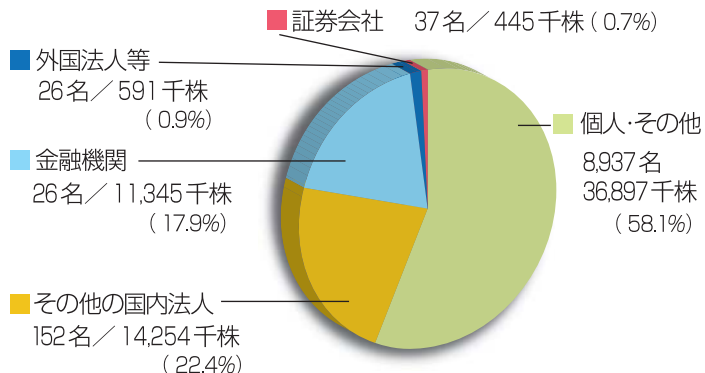
2. 大株主

ヤマハ発動機株式会社	6,456千株 (10.20%)
エンシュウ取引先持株会	4,895千株 (7.73%)
丸紅株式会社	3,612千株 (5.70%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,098千株 (3.31%)
浜松ホトニクス株式会社	2,000千株 (3.15%)
株式会社みずほコーポレート銀行	1,572千株 (2.48%)
みずほ信託銀行株式会社	1,455千株 (2.29%)
株式会社りそな銀行	1,414千株 (2.23%)
株式会社損害保険ジャパン	1,363千株 (2.15%)
明治安田生命保険相互会社	1,197千株 (1.89%)

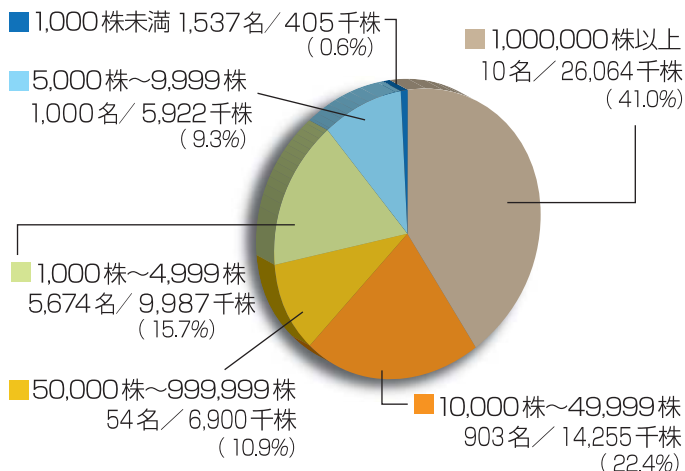
(注) 比率は発行済株式総数から自己株式を控除して計算しております。

3. 株主の構成

所有者別株式分布状況 合計: 9,178名 / 63,534千株



所有株数別分布状況 合計: 9,178名 / 63,534千株



(注) 株数は千株未満を切り捨てて表示しております。

4. 当期中の株式異動

名義書換件数	303件
名義書換株数	8,949,330株
当期末株主数	9,178名

COMPANY PROFILE

会社の概況

商 号	エンシュウ株式会社 (英文ENSHU Limited)
設 立	大正9年2月5日
資 本 金	46億4,085万円
発行済株式総数	63,534,546株
株 主 数	9,178名
従 業 員 数	939名(連結)
生 産 品 目	工作機械、輸送機器関連部品 半導体レーザー加工機

事業所

本社及び工場 〒432-8522 静岡県浜松市南区高塚町4888 電話 053-447-2111(代)

浜北工場 〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅788 電話 053-588-0211(代)

営業部・支店

営 業 部 〒434-0016 静岡県浜松市浜北区根堅788 電話 053-588-4771(代)

東 京 支 店 〒140-0011 東京都品川区東大井4-13-15 (スターハイツ)
電話 03-5479-1671(代)

大 阪 支 店 〒564-0063 大阪府吹田市江坂町1-23-43 (ファサード江坂ビル)
電話 06-6338-2471(代)

サービスステーション / 高崎・金沢・広島・九州

海外現地法人

ENSHU(USA)CORPORATION (シカゴ)
ENSHU GmbH (フランクフルト 郊外)
ENSHU(Thailand)Limited (バンコク)
BANGKOK ENSHU MACHINERY Co.,Ltd. (バンコク)

役 員

(平成21年6月26日現在)

代表取締役社長	中 安 茂 夫
専務取締役	千 賀 伸 一
常務取締役	安 田 俊 二
取 締 役	中 村 泰 之
取 締 役	小 木 国 典
取 締 役	中 村 和 夫
取 締 役	仲 山 正 明
常勤監査役	澤 木 達 治
監 査 役	石 塚 尚
監 査 役	菅 沼 幸 雄

株主メモ

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日 (期末配当) (中間配当)	3月31日 9月30日
定時株主総会	毎年6月 なお、定時株主総会において権利を行使することができる株主は、毎年3月31日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載された議決権を有する株主となります。
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	電子公告 (http://www.enshu.co.jp/koukoku/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。
株式の上場	東京証券取引所市場第一部

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先	お取引先の証券会社になります。	〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
電話お問い合わせ先		0120-288-324 (フリーダイヤル)
お取扱店		みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満株式の買取以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。



ホームページのご案内

当社はインターネット上で最新の情報を皆様に提供しております。
ホームページアドレス <http://www.enshu.co.jp>

ENSHU
エンシュウ株式会社